

第4回定例理事会

11月20日
本部会議室
出席・理事20人、監事1人

「6団体代表で具体策を」

庄司会長「活性化委スピードアップ」強調

会議の冒頭、庄司孝輝会長は「国会解散でいわゆるカジノ法案は廃案になったが、次の通常国会で修正されたものが出る可能性がある。そして依存問題は現実に残されている。業界としての対策を積極的に打ち出さなければならぬ。そ

のためには、遊技産業活性化委員会のスピードアップを図りたい。一度仕切り直しをし、形を変えて、6団体の代表者が集まって具体的な事項を決めながらWG(ワーキンググループ)に落とししていくことも考えたい。そうしないと結論が出せないことが起こる。また、日遊協は横断的に活動する組織なので、他団体からの団体加入の受け皿を検討していきたい。団体加入してもらったほうが様々な活動がスピードアップすると思うし、業界に対するパッシング等に対してまともに対応できる。今理事会ではこの活性化の延長線上にあるか

ろしくお願いしたい」と述べた。

団体加入受け入れへ「規程改正案」を提出

団体加入に際し、必要な規程改正事項(案)が提案された。日遊協への団体加入に関しては2007年11月の同友会加入の例があるが、これから予想される団体加入の動きに備え、この機会に団体会員に関する規定の不備な点を根本的に見直す。

先ず現行の定款では、会員は正会員、賛助会員、名誉会員となっていて団体会員の規定はない。正会員、賛助会員について「個人又は団体……」と説明しており、同友会もこの場合の「団体」に含まれると解釈される。しかし、今後は議決権など細かな問題が出てくることが考えられ、団体会員についての規定を新たに設ける。

さらに「団体会員に関する規程(案)」が提案された。第3条(入会申込)で「入会申込については、申込側の団体の理事会又は役員会の議決を要するものとする」として、申込団体の明確な意思を確認する。取決め事項の協議、取決め事項の合意等の項目を設け、取決めにあたっては、画一的ではなく個々の団体の事情を斟酌するように配慮している。

いても、現行のものは同友会の加入例に沿って規定されており、新たな形態での団体加入については適当といえない場合も考えられるので、部分的に削除等の変更を行う。また、現行の特別参与についても同友会の例に沿ってつくられているので、特別参与の設置及び運営に関する規程の変更が必要となる。

個々の事情を斟酌加入取決め柔軟に

附則として、すでに団体加入している同友会については、ほかの団体加入とのバランスなども考慮して、改めて取決め事項について協議を行うとしている。今後検討を重ね、来年1月の第5回定例理



◀冒頭あいさつする庄司会長



ので、審議をよも出てくる

も知れない団体加入についての案件

も出てくるので、審議をよも知れない団体加入についての案件



事会において更に内容を詰めていきたいとしている。

「依存問題対応GL」と「自己申告」検討を報告

依存問題を含めた遊技産業活性化委員会の審議状況が報告された。依存問題に関しては、先行していた日遊協の依存問題PTに全日遊連、日工組、日電協、全商協、回

胴遊商がオブザーバー参加して、活性化委員会の依存問題WGを兼務する形で審議が進められていることが説明された。

ホール向けの依存問題に対する指針として「パチンコ店における依存(のめり込み)問題対応ガイドライン」は社会に向けてのPR、経営者教育、店内における啓発などをまとめている。また、自ら上限を決めて遊ぶ「自己申告プログラム」システムの審議の進捗状況が報告された。(9ページに活性化委員会、自己申告プログラム検討

会の関連記事

東日本大震災で壊滅した海岸防災林復興のため、東北森林管理局の海岸防災林再生事業・平成27年度春季募集に応募することが承認された。日遊協としては、昨年5月の仙台市若林区荒浜地区、ことし5月の名取市下増田地区(仙台空港東側)に続く3回目の植林となる。

新規入会を申請した正会員1社(販売)、賛助会員2社の入会を承認した。これで11月20日現在、正

警察庁「LED光量低減」で回答

調光器取り付けでの対応認める

ホールでLED照明を長時間使用すると光量が低減し、風管法及び同法施行規則に定めた最低照度10ルクス以下に落ちる問題で、警察庁はこのほど、調光器の取り付けによる是正措置を回答した。この問題について、ホール関係5団体はさる7月14日に同庁の見解を尋ねていた。

同庁は調光器の取り付けについて、①LED照明装置が2系統以上ある場合は、非調光の系統で最

低照度(10ルクス)を確保すること ②LED照明装置を1系統として調光器をつける場合は、最低照度を下回らないための制御装置をつけること——の2例を挙げ、この2例について正しく運用するならば法に違反しないと考えられるとしている。

LED照明は白熱球と違って切れたり点滅状態になったりしないが、長期使用すると徐々に光量が落ちる。一般的にLED照明の寿

命は4万時間といわれているが、ホールの場合はタバコのヤニや天井付近の高温・高湿度等の悪条件のため、寿命はさらに短くなるといわれている。

ホール関係5団体は、東日本大震災以降、ホールは社会貢献の一環として積極的にLED照明への設備変更をするなど節電に取り組んでおり、今後も遊技環境を適切に維持するために調光器設置の可否を同庁に尋ねていた。日遊協は警察庁の回答を12月1日に会員ホールに通知した。

会員336社(ホール111、機械68、販売109、景品10、その他38)、賛助会員78社、計414社と団体加盟1(同友会)となった。(15ページに新規入会会員)

正副会長・支部長会議が11月20日、第4回定例理事事に先立って開かれ、団体加入を論議した。

警察庁、省エネで要請 パチンコ関連14団体に

警察庁は11月17日、「冬季の省エネルギー対策への協力について」と題する要請をパチンコ・パチスロ産業21世紀会に発した。21世紀会は直ちに構成14団体に通知した。

要請の要旨次の通り。

「10月31日の省エネルギー・省資源対策推進会議省庁連絡会議で『2014年冬季の電力需給対策について』が決定された。とくに一般の電力事情による節電対策の推進が強く求められていることを踏まえて、節電対策を含む冬季の省エネの推進に一層の努力を図り、傘下団体、会員企業等に対して周知をお願いする」